

奥羽大学報



111

目 次

年頭所感.....	2
歯・医療系大学間共用試験 CBT 問題作成講習会 ...	5
コミックアート研究会による駅前壁画作成／	
文学部紀要最終号／奥羽大学文学会第 51 回発表会 ...	6
日本薬学会東北支部奨励賞受賞.....	7
附属病院.....	8
セクシャルハラスメント防止委員会活動報告／	
公開講座特集.....	10
私が薦める一冊の本／余滴.....	15
同窓会.....	16
同窓生のひろば.....	17
人事／慶弔.....	18

年 頭 所 感



学 長
清水 秋 雄

明けましておめでとうございます。

穏やかな新年をお迎えのことと存じます。

昨年は歯・文・薬学部の3学部が揃った2回目の大学祭を盛大に開催しました。残念ながら文学部は、本年3月をもって閉じる予定になっています。最高・最終学年の4年生は、熱意ある教職員と有終の美を飾るべく勉学に勤しんできました。その成果は、必ず社会に貢献するものと期待しています。

歯学部は、新しい歯学教育の整備に基礎・臨床教育、教員研修、IT化等広範囲にわたり取り組んできています。今年はその充実期になります。

最高学年が2年生の薬学部は、間近に迫る実務実習、共用試験、2年後の国家試験等課題が多々ありますが、計画どおり教育陣が整い、4年制と6年制の2制度下での教育体制の充実、諸設備の整備等順調に進展しています。

教育実務は、時間的停滞が許されない宿命にあります。一方では長期間を要する研究分野があります。例えば、発育盛りに終戦前後の栄養不足に遭遇した世代が中年期に達した時、その影響が現れるという25年前の仮説に対し、成人以降の生存率への影響があったとの所見があります。また、さらに長期の観察を必要としますが、社会が'59年以降の出生者のみになった時、平均寿命が41歳になるという25年前の予測に対し、社会はこの警鐘を無視しているとの著書があります。実験系の分子生物学に対極的立場をとる意味ある分野です。

少子化、人口減少の教育界への影響は弱まることはなく、本年も継続している正念場に優れた知恵に裏打ちされた大学発展への、さらなる努力が教職員に求められています。



歯学部長
天 野 義 和

新年おめでとうございます。

皆さんは新年に当たり何かと計画をお進めることと思います。

歯学部は今年度から新しくモデル・コア・カリキュラムを実施します。その骨子は「人間性を豊かにする」建学の精神を組み込んだ医療人間学（態度、コミュニケーション、施設見学、歯学英语）を中心とし、系統教育（教養＋専門）、統合教育（基礎＋臨床）および診療参加型実習です。医療人間学においては4科目が約25名ずつに別れて行われ、これが当学部のカリキュラムの特色となります。

今、歯学部学生の資質について重要とされていることは「今後の歯科保健医療と歯科医師の資質向上等に関する検討会」の中間報告書に述べられている①コミュニケーション能力を有すること②入学時に一定の学力を有すること③社会人および医療人として信頼されること④安全で適切な歯科医療を行うための基本的資質を有することです。この望まれる資質を、教員も学生もこのカリキュラムをよく理解した上で臨まなければなりません。

また、このカリキュラムで実施される施設見学においては歯科医師になるという自覚を持たせるために郡山市内の同窓の先生方に見学の場所の提供をお願いし、快く承諾を頂きました。奥羽大学歯学部の発展には大学と同窓会が一体となって頑張ることだと思っています。ご心配を頂いている共用試験は日本歯科大学生命歯学部で実施されることになりました。今年度も教職員が一丸となって更に努力をして頂きたいと思います。今年も皆さんの良い年になるようお祈りします。



文学部長
青木 義孝

明けましておめでとうございます。とはいえ、今年は文学部が幕を閉じる年であり、めでたさも僅かばかりといった感じです。

文学部については、平成元年から18年間、お世話さまになりました。来る3月に4年生が無事に巣立ちますと、学部開設以来の卒業生の数は、英語英文学科2,172名、フランス語フランス文学科592名、日本語日本文学科1,345名、合計4,109名になります。

文学部は姿を消しますが、学部が掲げて来た教育目標、すなわち、思考や意思疎通に不可欠な言語に関して、理解を深め運用能力の向上を図ること、人間の感情や心の動きを如実に描いている文学作品を通して、人間についての認識を深め、人生観や価値観の形成に努めること、歴史や文化の知識を豊かにし、過去・現在の諸状況について理解を深めること、これらはいつの時代においてもその意義を失うことはないと思います。卒業生にとって、文学部で得た知識や技能が、人生における一つの支えになることを願っています。

学部がなくなっても、母体である大学は存在し新たな発展を目指しています。それに、文学部の卒業生が奥羽大学同窓生の一員であることに何の変化もありません。卒業生の皆さん、今後とも前向きに生きて行ってください。人生も而立を過ぎると、単に学歴だけでなく、それぞれの分野での力量と信頼性が問われます。ご苦労さまですが、精進をお願いします。

最後に、大学の弥栄と関係者の皆さまのご多幸を祈念いたします。



薬学部長
永井 正博

新年明けましておめでとうございます。皆様、良いお年をお迎えのことと思います。

薬学部では、本年4月には初めての3年生（四年制教育）が誕生します。本年は、これら学生諸君の卒論、求職活動、病院・薬局実務実習、薬剤師国家試験受験準備等を視野に置いて、種々計画を立てる年になります。

現在、在学生は両学年とも授業の総まとめとそれに続く定期試験の準備に追われているでしょう。2年生に対して昨年12月には単位修得が必須の基礎薬学演習がありました。基礎学力の充実は3年次以降の薬学専門科目のうち比較的应用性の高い科目の理解に不可欠で、また理解を容易にします。3年終了までに薬学専門科目すべてが開講されることになります。残りは応用科目です。

病院・薬局実務実習の内容は四年制と六年制では大きな差がありますが、平成20年度に実施される四年制教育でのそれは4週間の病院実習と2週間の薬局実習です。受入施設については、本学部設置時点で近隣の病院・薬局と約束がありますが、本年中に先方との約束を再確認し、確定することになります。これは平成22年度の六年制での実習受入先に繋がるものです。

本年は本学の薬学教育の骨格を決める年になりそうです。本学部教員は一丸となってそれに当たります。また、学生諸君がこの点をよく認識し、研鑽してくれるよう期待します。あわせて大学当局並びに歯学部諸先輩方のご協力とご指導をお願いいたします。



附属病院長
清 野 和 夫

謹んで初春のご祝詞を申し上げます。皆様にはお揃いでよき新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

附属病院では「人間性豊かな歯科医師の育成」をモットーに、患者さん中心の安全で安心な医療の提供、地域社会の健康増進と福祉向上への貢献、高度な先進歯科医療の実践を基本方針とし、福島県における歯科医療の中核病院として地域医療に取り組んでおります。

昨年度は、国の方針として医療安全管理が重視され、病院の安全管理、医療安全管理体制の確保、院内感染制御体制の整備、そして医薬品および医療機器の安全使用・管理体制の整備を主体にした医療法の改正が行われました。当院では早くからこれらへの取り組みを始め、マニュアル等の整備も完成期に近づいており、改正医療法を基に実施された保健所の立ち入り検査でも指摘事項がなく健全な運営が行われていることが証明されました。

また、昨年4月から開始された歯科医師臨床研修においては、研修室と控え室が新たに設けられ、整った環境のもとで臨床研修を開始することができました。協力型臨床研修施設との連携もよくとれており今後の成果が大いに期待されます。

今年は歯科医療を通して地域社会に貢献することは勿論のこと、臨床教育病院として臨床実習と臨床研修のさらなる充実をはかるとともに、医療の安全管理体制をさらに向上させ、地域における当院の役割を果たす所存ですので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭の挨拶といたします。



図書館長
安 藤 勝

新年あけましておめでとうございます。

皆様よいお年をお迎えのことと思います。

昨年の世相を表す漢字は「命」でした。「絶たれた命」の印象が余りにも強烈でした。命の重みが希薄になったような気がします。

そこで今年の漢字は、早くも私自身が勝手に決めました。「楽」です。「たのしい」世の中を願う意味と、プロ野球の「楽天」が東北の地で舞い上がって欲しいとの期待を込めての意味です。

さて図書館は、図書館資料の収集と整備の充実をめざすことはいくまでもありませんが、今年度は蔵書点検の実施と文学部関係返還図書の本棚の整備、図書館資料廃棄基準の検討等が加わります。

また、学術情報基盤の整備としてPC利用環境の見直し、電子ジャーナルの一層の推進等があります。

図書館は利用されてこそ、その存在価値があります。図書館ガイダンスや二次資料・各種データベース利用の援助等を含めた利用サービス活動を展開することが必要です。

本学図書館が保有する知的資産を広く社会に還元するための一般市民への図書館開放についても、具体案を検討することが求められています。

「奥羽大学図書館自己点検・評価報告書」(2007年1月)がまとまりました。学内図書館評価委員より「課題と改善点」のご指摘をいただきました。これらの意見を参考にして、更に充実した図書館を目指していきたいと考えております。

今年もよろしくご支援をお願いいたします。

歯・医療系大学間共用試験 CBT 問題 作成講習会

去る平成18年11月25日(土)・26日(日)に第1回、12月17日(日)に第2回の共用試験 CBT 問題作成講習会が本学で開催されました。本講習会は本学が医療系大学間共用試験実施評価機構に加盟するための準備として、本学教員の共用試験 CBT 問題作成およびブラッシュアップのレベルアップをはかる目的で行われたものです。

第1回は共用試験実施評価機構の小口春久理事(日本歯科大学客員教授)と荒木孝二理事(東京医科歯科大学教授)を講師に招聘し、本学参加者は、助教授・講師の若手教員を中心とした21名と、講習会責任者の天野義和歯学部長、共用試験責任者 鎌田政善教授のほか講習会実務者4名でありました。小口理事から医療系大学間共用試験の意義について、また荒木理事からは、CBT 問題作成方法についての講演のあと、2グループに分かれ、講習会参加者が事前に作成した CBT 問題についてのブラッシュアップを行い、さらに全体討議でもう一度ブラッシュアップを行い、最後にそれぞれの講師から講評をいただきました。

第2回は当初2日間を予定していましたが、日程の都合で1日間のみとなりました。講師には、1回目に引き続き小口理事と歯学系 CBT 実施小委員会 FD 部長である松尾敬志委員(徳島大学教授)を招聘し、参加者・実務者は1回目と同じメンバーで行われました。1回目と同様に参加者は事前に作成した CBT 問題のブラッシュアップを行いました。1回目で見られた問題書式の単純な誤りの無いことが指摘される一方、良質な視覚素材に配慮して作成された問題に見落としや、写真の甘いピントを指摘される場合もあり、CBT 問題で要求される問題の質の高さが再認識されました。

参加者は本学の機構への早期加盟を目指し、真剣な講習態度で参加しており、講評でも高く評価されましたが、さらに問題作成の

基本的考え方の定着や、良質な視覚素材の準備不足についての課題も残り、これには教育をはじめ、臨床系では日常の診療も大きく関与していることから、共用試験をとおした大学の改善ということも自覚させられました。

今後も CBT 問題作成講習会は予定されており、連問の作成方法や、さらに講習会参加者の拡大をはかるべく、準備を進めております。

(鈴木 陽典)



第1回



第2回

コミックアート研究会による

駅前壁画作成

東邦精麦株式会社アティ事業部から郡山駅前に壁画を描いて欲しいとの依頼を受け、本学コミックアート研究会が手がけることとなった「デザインアート」が11月中旬に完成した。

これはアティ事業部が市内の高校・大学生へ参加を募り、駅前商業地域の活性化と、スプレーペイント等による落書き防止を目的として、ダイコクドラッグの壁面を絵画作品で彩ろうと企画したものであった。「live everyday = write the letter to the future」と題された絵について、原画を描いた薬学部2年齋藤沙弥香さんは、「毎日をしっかり生活して自分を成長させていくことは、未来の自分に手紙を書くこと」という思いを込めたと語る。

郡山駅前の商業ビル「アティ」とその南側に位置するダイコクドラッグ、さらに駅ビルを挟む通路付近は、終日にわたり人の往来が多いエリアである。絵画は同研究会の10名ほどの部員が休日を利用し、3メートル四方ほどの壁画として完成させたもので、通行する人たちは作製中から興味深げに作業を見ていた。作品については、地元テレビ局のローカルニュースでも報道され、反響を得ている。12月10日(日)には福島民報新聞にも掲載された。

コミックアート研究会は、同じスペースを利用して継続的に絵を描くよう依頼を受けている。今後も絵画作品で街に新風を吹き込み、郡山駅前付近の文化発信の一端となって欲しい。



上段左端：薬2年 齋藤沙弥香さん

文学部紀要最終号

『奥羽大学文学部紀要』の最終号(第18号)が昨年末に刊行されました。平成元年に第1号が出て以来、本紀要の延執筆者数は291名、総論文数は289篇、そして総頁数は一版の大きさが第13号以降、それまでのA5版からB5版に拡大されたのですが—4517頁に上ります。内容的にも、「紀貫之の作品形成と『万葉集』」から「The Structure of Modification」まで、あるいは「ソール・ベロー『サムラー氏の惑星』試論」から「古今集遠鏡における近世語訳の敬語体系」まで、さらには「模倣としての人間精神—シュリングの美的観念論の射程—」から「コモン・ロー統治の立憲君主制の諸相」までと、文字通り古今東西の言語、文学あるいは思想の様々な問題を扱ったものとなっています。文学部があったことのいわば証として、これらの論考は図書館に所蔵されてゆくことになります。さながら文学部卒業生一人ひとりの胸裡に刻まれた学生時代の幾多の思い出のように。

(榊原 直文)

奥羽大学文学会第51回発表会

さる12月7日(木)、本年度4回目の発表会が5号館531教室で行われた。発表者は、日本語日本文学科の加藤幸一教授、演題は「伊勢物語第八四段を読む—塗籠本の異文をめぐって—」。発表では、第八四段について、現在広く読まれている藤原定家筆本と、それとは異なる本文を持つ塗籠本という写本を比較し、塗籠本で読むとどうなるのか、塗籠本の本文がどのようにして生まれて来たのか、発表者の見解が述べられた。定家筆本によると物語全体から読み取れる主人公の「誠実な宮仕え人」という側面と結びつくのに対し、塗籠本によると「激しく愛情世界に生きる男」という側面と結びつく。いずれの本文も捨てがたいという。塗籠本は、後の時代に書き換えられた本文と見られるものの、古典が書写する人の解釈によって書き換えられながら伝来し

ていった様子がわかるという。発表後、参加者より様々な質問が投げかけられた。1994年にスタートした奥羽大学文学会の発表会も今回で幕を閉じることとなった。

(小野 四平)

日本薬学会東北支部奨励賞受賞

本学薬学部の柏木良友助教授（物理化学担当）が、平成18年度の日本薬学会東北支部奨励賞を受賞された。この賞は、日本薬学会東北支部に所属する若手研究者の薬学の基礎と応用に優れた研究、あるいは薬学の発展に寄与した優れた業績に対して授与されるものであり、12月8日(金)、仙台ガーデンパレスに於いて授与式ならびに受賞講演が行われた。

受賞対象研究は「有機電解合成のための機能性電極界面の構築」で、電極を電子移動反応場として設計・制御し、特異な活性反応種を生成させるための機能性物質（メディエーター）を固定化させた修飾電極の作製とその有機合成への応用についての研究である。このメディエーター修飾電極を用いた有機合成の特徴は、主に以下の4点である。1) 電子を試薬として用いる無公害プロセスである、2) 直接の電解反応よりも低い電極電位で反応が進行する、3) 触媒の使用量が少なくて良い、4) 生成物の回収・精製が簡略化される。この研究成果は、従来の有機合成に比べて格段に地球環境に優しいクリーンな反応プロセスの構築に応用できるので、長い歴史を有する有機電気化学にインパクトを与えるものである。柏木助教授はさらに、エナンチオ選択性ないしは不斉合成を重視する最近の有機合成への電解法の有用性をも明らかにしており、それらの業績は国内外から高く評価されている。

授与式では、日本薬学会東北支部長の榎本武美教授（東北大学大学院薬学研究科）より、本研究が薬学基礎研究として極めて優れたものであり、今回の受賞を励みに今後なお一層の優れた研究を行うことを祈念している、との祝福と激励があった。

柏木助教授は、平成15年度にも関連する研

究において第2回インテリジェント・コスモス奨励賞を受賞している。今回の受賞は、継続して素晴らしい研究成果を挙げていることを証明しており、今後もより一層質の高い研究成果が生み出されるものと期待される。

(野島 浩史)



附属病院

研修セミナー特別講演会

11月16日(木)、午後5時30分から附属病院5階臨床講義室で研修セミナー特別講演会が開催された。講師に今村俊彦福島県歯科医師会常務を迎え、「臨床研修歯科医は研修施設で何を学び何を会得すべきか―開業歯科医の経験を通して伝えたいこと―」という演題で講演を頂いた。

まず県歯科医師会の存在意義・目的と地域医療との係わりについて説明があり、次いで歯科医師過剰問題と今後について、保険医定数制度などの諸課題について言及された。後半はサブタイトルでもある、ご自身の歯科医師としての経験談について触れられ、開業当初のご苦労話や近年の凶悪犯罪の増加に伴った司法解剖の一助として、補綴装置への所持者氏名の埋入など、ユニークなご提案が話された。

最後にサービス業としての歯科医療の観点からの「患者様」という呼称についての問題提起があり終了となった。

当附属病院と県歯は、より緊密な医療連携を構築し、それぞれの機能と特徴を最大限に発揮して良質な歯科医療を提供するため、研鑽と積極的な医療活動の必要性を再認識した。

(杉田 俊博)

協力型臨床研修施設派遣式

去る11月28日(火)、平成18年度複合型歯科医師臨床プログラムの24名中、後期派遣臨床研修歯科医11名の協力型臨床研修施設派遣式が挙行された。後期派遣臨床研修歯科医師は、呼名、起立後に清野附属病院長から「患者のニーズが多様化し、より安全・安心な歯科医療が求められている。健康に留意し、実り多い研修をしてきてほしい」と訓示があった。続いて鎌田臨床研修プログラム委員会委員長が複合型歯科医師臨床プログラムの特徴と修了認定について説明し、高橋臨床研修指導歯科医連絡会委員長が協力型臨床研修施設での研

修心得について話された。11名の一人ひとりが派遣先と決意表明を述べ、参列者の激励の拍手に見送られた。

後期派遣臨床研修歯科医は、10施設に11名(青森県1、宮城県1、福島県2、茨城県1、栃木県2、東京都3、鳥取県1)が派遣され、12月1日(金)より本年3月15日(木)までの約3ヶ月半の研修の後、本学附属病院に戻り研修修了を迎える予定である。

前期派遣臨床研修歯科医より4ヶ月ほど長く大学での研修を積んできた11名は、前期派遣臨床研修歯科医が派遣された協力型施設とは別の施設(10施設中9施設)でより多彩な指導を受け、飛躍の年となることと期待しています。

(杉田 俊博)



平成18年度第2回歯科医師臨床研修指導医講習会

第2回講習会は平成18年12月2日(土)・3日(日)、日本大学松戸歯学部付属病院副病院長・葛西一貴チーフタスクフォースおよび厚生労働省臨床研修審査官・田村貴彦特別講師を迎え、参加者32名、スタッフ18名で講習会主催責任者代理の西須栄治・県歯科医師会副会長の挨拶で始まった。今回のWSは第1回の俣木チーフタスクフォースの助言によって、WSでの考え方を理解させるためにKJ法と二次元展開法を別項目として実施し、WSの中心的テーマである研修方略に多くの時間を割く日程であった。また、最新の教育の考え方である欠陥に注目した組織改革でなく、人の「強み」・「潜在力」を引き出すポジティブアプローチ・AI理論、情報を一元化して「プロセス」から「プ

ラス」を評価するポーフォリオ評価についても葛西チーフタスクフォースから提供され、2日間を無事に終了した。

(齋藤 高弘)



医療連携マニュアル第2版発行

平成14年4月初版2刷発行してから、4年を迎え、医療法の一部改正や医療保険の大幅改定など歯科医療事情も大きく変化し、それに対応するために全面改定いたしました。本マニュアルは本学のみならず、地域で活躍されている歯科医師の方々にも活用できるように工夫されておりますので、円滑な連携を期待しております。

(齋藤 高弘)



お知らせ 特別外来リーフレット作成

患者さんのニーズに応えるためにこの度特別外来を見直し、リーフレットを作成しましたのでご活用下さい。

特別外来診療のご案内	
一般的な歯科治療のほか つぎのような受診相談を受けております。 お気軽にご相談ください。	
名 称	内 容
審美歯科外来	歯の色、形、歯ならびなどが 気になる方の相談と治療
歯周外科 組織再生外来	進行した歯周病の外科的治療 および骨と歯肉の再生治療
口臭外来	口臭の要因・治療・予防
噛み合わせ外来	噛み合わせが気になる方の 相談と治療
顎顔面補綴外来	病気により失った顎や顔の部 分を義歯などの人工物で修復 するための受診相談と治療
スポーツ外傷 予防外来	スポーツによる歯、歯肉、顎 骨などの外傷予防（マウス ピースの製作・装着）
顎関節症外来	顎関節の痛み、雑音、運動障 害に対する相談と治療
口腔アレルギー 外来	口腔に生じたアレルギー病変 （特に金属アレルギー）の検 査・診断・治療
いびきとまじりの外来 （睡眠時無呼吸症候群）	夜間のいびき、歯ぐきしりおよ び睡眠時無呼吸症候群の相談 と治療
名 称	内 容
口唇・口蓋裂 外来	口唇・口蓋裂患者さんの手 術、哺乳指導および発音訓練 などの相談と治療
味覚・舌痛症 外来	味がおかしい、舌が痛いな ど、口腔内の感覚異常が気にな る方の相談と治療
顎顔面変形症 外来	噛み合わせと顎の変形を改善 するための相談と治療
歯科 ペインクリニック	難治性の口腔顎顔面領域の痛 み、麻酔などの相談と治療
有病者歯科外来	高血圧、糖尿病などを有する 患者さん、および高齢の方の 歯科治療に対する相談と治療
障害児・者歯科 外来	心身に障害を持つ患者さんの 歯科治療に対する相談と治療
口腔インプラント 外来	歯の欠損部を歯科インプラント で治療を希望する方の相談 と治療
レーザー歯科 治療外来	レーザーを用いた無痛の歯科 治療に対する相談と治療
口唇麻痺外来	口唇の感覚に異常がある患者 さんの相談と治療
予防歯科外来	むし歯や歯周病を予防するた めの相談と治療
口腔癌性腫瘍 外来	顎口腔に発生した悪性の腫瘍 に対する相談と治療

セクシャルハラスメント防止

委員会活動報告

セクシャルハラスメント防止に関する法律が改正されました。この改正男女雇用機会均等法は平成19年4月1日より施行されます。今回の改正の背景には、セクシャルハラスメントの相談件数が依然として多いことに加え、男性に対するセクシャルハラスメントの事例がみられること、さらに、具体的な措置を講じない事業主が一部に存在することなどがあります。主な改正点は、1) 男性に対するセクシャルハラスメントも対象とすること、2) セクシャルハラスメント対策として雇用管理上必要な措置を講ずることを事業主に義務づけたことです。具体的な措置の内容は指針で示され、是正指導に応じない場合の企業名を公表すること、調停など労使間の紛争解決を援助すること、事業主が報告徴収に応じない、又は虚偽の報告をした場合に過料を科すことが定められています。改正前の男女雇用機会均等法が対象としたのは、男性から女性に対するセクシャルハラスメントだけであったこと、また配慮義務にとどまっていたことを考えると、大きな変更があったといえます。

平成17年4月1日に制定された「奥羽大学セクシャルハラスメント防止等に関する規程」では、セクシャルハラスメントを「相手の望まない性的な言動または性差別的な言動」と定義して、男性から女性へのセクシャルハラスメントに限らず、女性から男性へのセクシャルハラスメントも禁止しています。しかし、これまでのセクシャルハラスメント防止委員会の活動は、啓発活動も含め、男性から女性へのセクシャルハラスメント防止に重点をおいたものとなっていました。

今回の男女雇用機会均等法改正を機に、防止委員会活動の軸足を大学の規程に忠実な方向へ移して行きたいと考えております。すなわち、男性から女性へのセクシャルハラスメントに加えて、女性から男性へのセクシャルハラスメントも積極的に取り上げて行くつもりでありますので、ご協力下さるようお願いいたします。

(久野 弘武)

公開講座特集

平成18年8月26日(土)から10月14日(土)の間に、4回に分けて本学で開催した第15回奥羽大学公開講座の概要を特集で掲載します。

歯科からみた高齢者の健康とは

歯学部教授 鎌田 政善

我が国の高齢化は欧米諸国に比べて急速であり、2004年には65歳以上の高齢者の人口が、全人口の20%を超えたと報告されました。さらに、2005年の平均寿命では男性が78.53歳、女性が85.49歳と男女合わせて世界第一位の長寿国となっています。厚生労働省では平成12年から「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」を推進していますが、その9分野における生活習慣病予防に向けた取り組みの中に“歯の健康”が取り入れられており、80歳で20本の歯を残存させようという啓発運動（8020運動）が推進されています。しかしながら加齢に伴い残存歯数は減少傾向にあり、80歳では平均6歯残存しているのが実状です。このような中で、男女とも歯数が多い群ほど生命予後が有意に高いことがコホート調査で明らかにされており、また、義歯を装着していない者は義歯装着者に比べて1.52倍死亡率が高かったことが報告されています。したがって、歯科の2大疾患であるう蝕と歯周病を予防するためのブラッシングが重要であり、1本でも多くの歯を残存することが健康に繋がると言えます。

また、高齢者の楽しみ（生きがい）は「美味しいものを食べること」「味わうこと」さらに「家族や友人とお喋りをする事」があげられています。これらは全て口腔の大切な生理機能であって、社会のために働き続ける意欲を起こすのに必要な身体機能であり、同時に自分の健康を維持していくうえでも大切な機能であります。これら一つが欠けても生きがいに強い影響を与えることになります。これから高齢者が余生を楽しく過ごすためには、口腔ケアが最も重要となります。

健康には身体健康と心の健康とがあって、これら二つが合わさってはじめて健康体と言えるでしょう。食事を楽しくとることで栄養状態を維持することができ、さらに人前で大きく口を開けて笑ったり喋ったりすることが全身の健康に繋がると言えるでしょう。

高齢者とクスリの効き目

薬学部教授 東海林 徹

1. 新薬のできるまで

1-1 非臨床試験（動物試験）

新薬開発の最初は動物での試験です。いわゆる動物で効果と毒性を検討する動物実験です。次に動物の体の中への吸収、吸収された薬物の代謝およびどのくらいの時間で排泄されるかを試験します。

1-2 臨床試験

非臨床試験で有用性が確かめられた薬物は、ヒトでの試験に移ります。ヒトでの試験は第1相から3相までありますが、ややもすると人体実験になりかねません。人体実験は絶対許さないという決まりは、1964年にヘルシンキで開催された第18回世界医師会総会で採択され、修正され2000年にはイギリスで修正案が採択されました。ヘルシンキで最初に採択されたので、これをヘルシンキ宣言と呼んでいます。この中で重要なことは人権を守ることであり、インフォームドコンセント（説明と同意の取得）が義務づけられました。

新薬は国から何重にも厳しくチェックされておりますが、さらに病院の薬剤師および町の調剤薬局の薬剤師は、それぞれの患者さんの薬による副作用をチェックしております。国と薬剤師会、病院薬剤師会、薬学部が一丸となり二度と薬害を起こしてはならないと立ち上がり、薬剤師の質向上のため薬学教育が6年制になりました。

2. 30歳と70歳の薬の効き方の違い

薬は所詮異物それも毒性のある異物ですので、体外に排泄する必要があります。肝臓と腎臓は薬を排泄する役目の臓器ですが、加齢と共に肝臓あるいは腎臓の機能が衰えてきま

す。そのような場合には、薬の体外への排泄が遅れて、副作用が起こる原因になります。薬は30歳の成人量よりも70歳の量を減らすことを考えなくてはなりません。しかし、高齢者は個人差が大きく、いちがいに量を決めることはできないことが問題です。

「噛む」と認知症

歯学部助教授 山森 徹雄

認知症とは、「脳や身体の疾患を原因として、記憶・判断力などの障害がおこり、普通の社会生活がおくれなくなった状態」です。加齢に伴う「もの忘れ」に比較して、急激に進行する病気であること、また社会生活に支障をきたす点が異なります。代表的な原因疾患はアルツハイマー病と脳血管障害であり、直前のことを忘れてしまう記憶障害、現在地や日時がわからなくなる見当識障害、ドアを開けるなどの簡単な行為ができなくなる判断力の低下がみられます。それ以外にも、妄想や幻覚を訴えたり、抑うつ状態となったり、逆に攻撃的行動をとる場合もあります。

「食べる」ことには、栄養摂取以外にも、文化の伝承という側面がありますが、「よく噛んで食べる」ことにより、味わいが増し、顔面の発育、唾液分泌や胃腸の働きを促進するなど、さまざまな効用が報告されています。さらに、「噛む」と認知症の関連についても実験的に確認されています。すなわちマウスやラットの臼歯部での咬合接触が欠如すると、神経線維や神経伝達物質の減少や学習能力の低下を生じるとの報告があり、世界保健機構（WHO）とアメリカ老化研究所（NIA）では、歯の喪失がアルツハイマー病の危険因子であるとしています。これとは逆に、残存歯の多い高齢者ほど健康状態が良好で活動性が高いことが報告されており、「噛む」環境を維持することは心身の健康増進に直結するといえます。したがってライフステージに応じた口腔健康を維持するための努力が求められるとともに、歯を失った場合は適切な処置により「噛む」環境を回復することが大切です。

メタボリックシンドロームと老化

薬学部教授 石幡 明

最近、新聞やテレビ、ラジオなどでメタボリックシンドローム（代謝症候群）という言葉を見たり聞いたりすることが多くなりました。

メタボリックシンドロームとは、肥満（とくに内臓脂肪の蓄積）、血圧が高め、血液検査をすると脂質が正常値からちょっとはずれている（LDLが少な目、中性脂肪が高め）、血糖も高め、などの危険因子が3つ以上あてはまる場合を指しています。

日本人に対する診断基準では、肥満（内臓脂肪蓄積）が必須の条件となっているのが特徴です。肥満にあてはまるかどうかは、病院で検査しなくてもウエスト周囲径を測ることによって、自分で手軽にチェックすることができます。血圧も家庭で簡単に測定することができます。ただ血糖値や中性脂肪値は、病院で測ってもらう必要があります。

少々太っていても、血圧が高めでも、あるいは健康診断で中性脂肪が高めですといわれていても、特に痛くも痒くありません。つまり日常生活をするうえでは何の自覚症状も不自由も感じないので、ついつい放っておくことになってしまいがちです。でも、実はこのメタボリックシンドロームに該当するひとたちは、将来、心臓を養っている血管が詰まって心筋梗塞や狭心症をおこしたり、脳の血管が流れにくくなったり破れたりして脳や手足の動きに重大な障害を残し、最悪の場合には命をも失ってしまう危険がとても大きいのです。

これまでメタボリックシンドロームは、中年ないし若年者にとって危険だとされてきました。しかし最近の研究で、メタボリックシンドロームの老齢者は、数年のうちに心臓や血管の重い病気になる危険が、健常な老齢者に比べてかなり大きくなることが証明されました。つまり、年齢にかかわらずメタボリックシンドロームの予防、改善に努めることが、健康長寿を目指すのにはとても大切なことなのです。

お口からはじめる老化防止

歯学部助教授 宗形 芳英

誰にでもやがては訪れる高齢期を明るく元気に過ごすためには、病的な老化を防止して健康寿命を延ばすことが必須であり、生活の質（QOL）を下げってしまうような生活習慣病や認知症の予防がその重要なカギとなります。近年の調査研究から健全な歯や口の機能を維持することがそれらを予防するための有効な手段であることが明らかになってきました。つまり、日常の咀嚼や会話が脳に流れる血液量を増やして脳の広い部分を活発にする働きがあること、ガムを噛むことでストレスが軽減されることなど、高齢期の健康維持に大切とされる「適切な食生活」、「適度な運動」、「ストレスの軽減」のすべてに口の働きが深く関わっているからです。このことは、長年にわたって高齢者の口の中を調査してきた報告で、「口の中の健康が保たれている高齢者は、病気になりにくく、社会的活動が高い」という結果からも支持されます。

しかし、一般の多くの方は高齢になって歯を失うことは避けたいことと考えがちで、このことは、「歳をとっても適切な口腔ケアをすれば歯を残すことが十分可能である」と回答した人の割合が、歯科医療従事者の約7割に対して、一般では2割に満たなかったというある団体のアンケート調査結果に表れています。これは私たち歯科専門職からのアピール不足が大きな原因であり、機会あるごとに「適切な口腔ケアによって歯が残せること」、「楽しく健康な高齢期を過ごすために、自分の歯が残っていることが非常に有利であること」を一般の方々に説明する責務を果たすことが大変重要と考えます。その意味において今回の公開講座は十分に意義深い企画であったと思われます。

老化防止の薬はできるか？

薬学部教授 曾根 孝範

老化を止めたり、若返ることは、だれもの願いです。女性のほとんどの方は、「いくつになっても若く、美しく！」とおっしゃいます。でも、老化防止は簡単なことではありません。

染色体の末端にあるテロメアは老化の時間を刻むタイマーです。細胞が分裂するごとに短くなり、テロメアは寿命の回数券といえます。活性酸素には強い酸化作用があり、有害な過酸化物質をつくり、老化を促進します。また、DNA には、老化の道筋が記載されており、さまざまな遺伝子が老化にかかわっていると推測されます。老化現象は、テロメア、活性酸素、遺伝子などが複雑にからみあって起こっていると考えた方がよさそうです。

コエンザイム Q10 (CoQ10) は生体内で作られるもので、ミトコンドリアの電子伝達系の必須因子として、また、抗酸化物質として重要な生体内物質です。日本では30年以上前に医療用医薬品（心不全の薬）として発売されました。1991年からは OTC 薬として、また2001年からは世界的にもサプリメントに利用され、医薬品として重篤な副作用の報告がないことから、食品として認可されました。

CoQ10はヒトに対する十分な安全性が確認され、老化防止を期待できる資料もあります。これだけの期待される抗酸化物質がなぜ老化防止薬として開発されていないのでしょうか？理由は、臨床試験の難しさ、膨大な開発費用などであり、食品として販売されているものにリスクをかけてわざわざ医薬品にする必要がないのです。

薬（医薬品）は、病気や症状に直接作用し、病原菌を殺したり、熱や血圧を下げたり、炎症を抑えるといった使い方をします。

老化は病気ではありません。ですから、すべてを薬に頼るのは間違いです。（塩谷北里大名誉教授談）

「最近、アンチ・エイジングという言葉を目にします。老化を刻む時計の針を止めよう

というわけではありません。その針の進みを遅らせようとする試みなのです。アメリカでは、“サクセスフル・エイジング”という言葉もよく使います。訳せば、“豊かに年を重ねる”でしょうか。前向きな生き方に感じられますね」

充実した年を重ねるための5か条

「1. いくつになっても、おしゃれ心を忘れない。」「2. 肌の若さを保つのは、心の若さを保つこと。」「3. バランスのよい食事と適度な運動を心がける。」「4. よく笑い、よく話し、よく囁む。」「5. 長生きこそが、最大の誇り。」

食べ物をおいしく食べるために

歯学部助教授 佐藤 純

私達が食事をおいしいと感じるのには様々な要因があります。勿論好きな食べ物を食べた時、好きな人と食べた時、素敵な場所と時間を過ごしながらの食事。単に食べ物の種類や見た目、味だけではなく、様々なシーンの修飾が食事を何倍にもおいしく楽しいものにしてくれます。しかし、食べ物を本当においしく食べるためには、歯と歯茎の健康の維持と増進が必要不可欠といえます。

厚生労働省の統計によれば、虫歯は歯科医師の増加にもかかわらず、決してそれに見合った減少傾向を示しているわけではありません。また、歯周病も40歳を過ぎた人のおよそ9割が中程度の歯周炎に罹患していると言われています。

人生の楽しみの一つに「おいしいものを食べる」という事が挙げられると思います。ところが、歯や歯茎の健康が損なわれていたなら、決しておいしいものを食べる事はおろか、おいしく食べる事はできません。そこで私達は、これからの人生をより楽しいものにするために、虫歯や歯周病の原因を知り、しっかりとした予防を心がけ、実践して行かなければならないのです。今回の公開講座では、専門的立場から歯周病にスポットを当て、歯周病とはどんな疾患で、放っておくと、

どの様なことになるのか、治療法にはどんなものがあるのか、また、それらの疾患から身を守るためにはどうしたらいいのかについて、わかりやすく解説致しました。

今後、少しでも多くの人々が、おいしく食事をするために、歯や歯茎の健康に目を向け、歯の痛みや、歯茎が腫れることによって我々の元を訪れるのではなく、より幸せな時間を過ごすために、共に手を取り合って良好な口腔環境づくりを考えて行けるよう、願って止みません。

ボケを防止するために

薬学部教授 荒井裕一郎

痴呆は侮蔑的な意味合いがあるとし、行政関係では認知症を用いる。ボケと痴呆・認知症とを区別して用いたい。

加齢に伴い、内臓や運動機能の衰えと同様、思考・記憶・認知・学習などの中枢機能も衰える。ボケは加齢に伴う正常な生理的老化であり、物忘れをするが、日常生活に支障はない。痴呆は、記憶、思考、見当識、理解、計算、学習能力、言語、判断などの障害が進行的であり、被害的、妄想的な解釈、行動となり、日常生活、社会生活に問題が起こる。

痴呆には原因不明のアルツハイマー病型痴呆、脳卒中、高血圧、糖尿病、喫煙、外傷などが原因の脳血管性痴呆、他の疾患による痴呆に大別できる。

(財)ほけ予防協会は 1. 塩分や動物性脂肪を控え、バランスのよい食事を 2. 適度な運動で、足腰を丈夫に 3. 深酒とタバコを避け、規則正しい生活を 4. 生活習慣病の予防・早期発見・治療を 5. 頭の打撲、転倒に気をつける 6. 興味と好奇心をもつ 7. 考えをまとめて表現する習慣を 8. こまやかな気配りのあるよい付き合いを 9. いつも若々しくおしゃれ心を 10. くよくよしないで明るい気分で生活を とある。

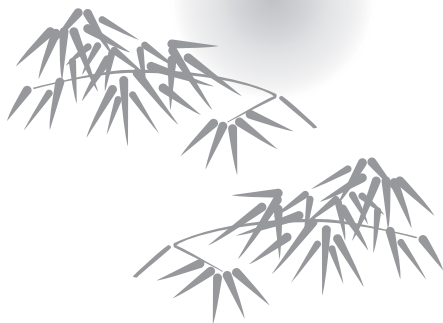
ボケ予防の話題に食物、特に n-3 系不飽和脂肪酸がボケ予防に有効とも言われている。脂肪酸や微量金属を含めバランスの良い食事

が求められる。

統計より、日本人には昔からの生活習慣で

1. 固い食べ物 2. 細工や裁縫など細かい仕事 3. 井戸端会議、が多いため痴呆が少ないと言われる。そこで、前述の10か条に加え 1. 煎餅など硬いもので歯・歯ぐき・顎から脳に刺激を 2. 細工・工作、裁縫など細かい作業で指先から脳に刺激を 3. 話題を正しく把握・理解し、筋道の通ったおしゃべりを大声の早口で。

遊んでいる脳細胞を活性化してボケ・痴呆の発症を遅らせることを推奨する。



私が薦める一冊の本

「年寄りの話はなぜ長いのか」

(高田明和著 東洋経済新報社)

著者は浜松医大の名誉教授であり、年寄りの話が長いのは何故か？を軸として、主に脳機能の経年変化を解説しています。話が長くなる理由として、「前に話したことを忘れて、同じ話を繰り返す」、「話している間に何をどこまで話したか忘れ、言いたいことが分からなくなる」、「自分の正しさ、価値観を相手に納得させるために、必要以上に語る」、「目下(若い人)に対しては、さらにオレの言うことを分からせてやる」等が根底にあるようです。つまり、自分で言ったことに対する記憶や、聞き手への配慮といった脳の機能が老化によって低下することが、話が長くなる最大の理由だそうです。話すという動作には、作業記憶(この場合、何をどこまでどのように話したかを一過性に覚えていること)が必要ですが、作業記憶には脳の前頭前野という部位が関与しています。この部位の老化した人は、作業記憶に問題があるので何度も同じ話をしてしまいます。また前頭前野が老化すると、前頭前野から扁桃という部位へ至る神経の調節がうまくいかなくなります。この神経路は気分や感情を制御しているので、障害が生じると感情的になって急に怒ったり泣いたりするようになります。前頭前野は子供でも未発達なので、前頭前野の老化した人の精神構造は子供と一緒にのかもしれません。子供と違うのは、年寄りには人生経験が豊富なことであり、その中で成功者は特に「自分の生き方・価値観は正しい」、「それをお前らに分からせてやる」と考えがちで、若い人達から煙たがられるそうです。

この本では、その他、長期記憶や脳の機能全般に関する経年変化等が記載されています。タイトルに心当たりのある方にぜひお薦めいたします。

(阿部 賢志)

余 滴

辞書によれば、自然科学とは生物学、化学、物理学、地学、天文学などいわゆる理学であり、これらは一般的に法則が導かれ、これをもとに種々の成り立ちやあり方を理解し、説明・記述しようとする学問の総称である。

日本は昭和30年代には高度成長期と言われ、種々の分野で大きく発展した。自然科学が関与するところでは、航空機YS-11、新幹線、トランジスター、テレビ、種々の医療機器などの開発と素晴らしく発展した。科学の恩恵である。

「科学」の特集に疑似科学があったので紹介する。疑似科学は、一見、科学のようであるが実は科学ではなく、科学の顔をしてまかり通ってしまうとある。同様な語にニセ科学、似非科学、トンデモ科学などがある。疑似科学の代表的、古典的なものは血液型性格判断である。さらに水からの伝言、マイナスイオン、アルカリイオン水は代表的な疑似科学である。疑似科学を信じようが勝手であり、また、疑似科学と言われる分野を科学する研究もある。そのほか、商品販売のために科学を装う詐欺科学、誤った信念から生じる誤った科学の病的科学がある。意図的にデータをでっち上げるのではなく、自説を裏付けるデータを最大限に利用し、都合の良いデータのみを採用し、自説を反証するデータは認識しないように自分自身を騙した結果、逸脱した結論に至ったのが病的科学や疑似科学である。

我々の関与する医療系科学も陥りやすい。人・動物の行動のように確率的な要因が絡み合う対象を研究する場合には病的科学で見られるような選択的データの利用になり易い。そのために、的確な実験計画、主観を排除する二重盲検法などの研究手法、誤差を考慮するための統計解析法などにより慎重に対応しなければならない。こうした手続きを軽視し、主観が強調されると疑似科学に成りうる。

(荒井 裕一郎)

同 窓 会

歯学部

同窓の先生方におかれましてはご家族お揃いで良い年を迎えられたことと心よりお喜び申し上げます。

今回は岩手県支部の紹介とのことで投稿の依頼があり、一筆書かせていただきます。

現在、岩手県支部会員数は、狩野裕史支部長をはじめ48名を数え、数年前から会員数の増加は予想されており、連絡網の整備が図られてまいりました。

岩手県支部活動の主たるものは、大学本部からの慶弔連絡や、学術講演会、社保講習会の開催のお知らせなど支部会員全員にFAX又はメールにて行っていることです。

その他、いろいろとお伝えしたいことがございますが字数の制限もありますし、私事ではなはだ恐縮ではございますが、昨年の12月に、ある新聞のコラムに投稿の依頼があり掲載された文を紹介させていただき、筆を置きます。今後益々の同窓会の発展と、先生方のご健勝をご祈念いたします。

今年の3月の任期満了まで3期9年、地区歯科医師会会長を務めた者です。

会長職を退き早9ヶ月がたちましたが、一会員として、思いつくまま筆を執ってみました。

会長を辞めて4月から2ヶ月ぐらいは、何か物足りないような、寂しいような気持ちで、手帳を見ても公的予定は何もなく真っ白。頭の中は、この時期にはこの事業、もう少したてばあの事業、担当理事は事業計画をちゃんと進めているだろうか、滞りはないだろうか、と考えをめぐらせるのですが、現執行部に口出ししてうるさがられるのもいやだし、良いOBでいたいし、と、それはもういらしたものです。

しかし現在に至っては、仕事以外は自分の時間を有意義に過ごせ、地域の異業の方々と一歯科医師として気兼ねなく付き合うことができ、以前よりお互いが打ち解けて話

ができるようになった気がします。

そして何より変わったのは、妻だと思います。

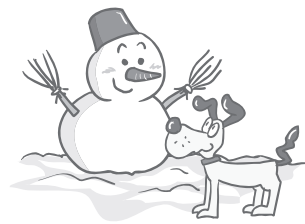
以前は、週に3～4日は仕事が終われば、やれ会議だ、やれ飲み会だと、家に遅く帰っていたのが、今では定時に帰宅、家族と一緒に夕食をとり、晩酌をして9時か10時に就寝という毎日です。

家内してみれば、毎晩決まった時間に家にいられるのも迷惑かもしれませんが、「体のことを考えれば本当によかった。」と言ってくれます。また以前は何をしたわけではないのに、いつも目じりが上がっていたものでしたが、今は顔つきも変わり、穏やかな表情に見えるのは気のせいでしょうか。

さて、手帳の話にもどります。

最近、手帳も真っ白ではなくなってきました。といいますのも、元来、広く浅くと多趣味な私ですから、忘れていた趣味を次第に思い出し、いつしか手帳は趣味の予定が書かれるようになっております。

(岩手県支部副支部長 伊藤 篤)



同窓生のひろば



鈴木 明
(歯学部2期生)

同窓生諸氏、元気でお過ごしですか。本学を卒業してから早や27年が過ぎ、なつかしく思います。

私は、郡山市より南へ約50km離れた白河市区にて開業しております。当地周辺には、同窓生31名の先生方が御活躍されており、それぞれ交流を深めています。同じ学舎で勉強した者同士、なぜか親近感を覚え、同窓という意義を感じるこの頃です。

ところで、近年、世の中では景気が良くなってきていると言われておりますが、まだまだ不景気の感がぬぐいきれておりません。我々の業界においても、今年の診療報酬改正において、又より厳しい現実と直面しているのが現状ではないかと思えます。

暗い話はやめて、私の楽しみの一つである魚釣りについて書きたいと思えます。日頃、人間を相手に生活しております。気分を変えて違うものを相手にしてみるのも良いのではないかと思います。釣りを選んだのがきっかけです。種々の釣り雑誌を読みあさり、釣り道具を手に入れ、教えていただく先生を見つけいざ実戦へ。湖等に出かけての「ブラックバス」釣り、引きの強さに感激。又、溪流釣りにおいては、早起きをして澄んだ空気の下で「岩魚」、「山女」をねらい、健康作り。管理釣り場では、「トラウト」を（冬場のヒマつぶし）。又、1年に1回、船釣りでの「ヒラメ」釣り。この「ヒラメ」釣りでは、同期の小野寺勉、和加世、両先生に大変お世話になっており、厚く御礼申し上げます。このように、小さな楽しみかもしれませんが、目的を持ち、苦もなく行動ができることが最良のことと思っております。喜怒哀楽は人間につきものです。それらと上手に付き合い、楽しく生きて行くことが最高のことではないでしょうか。



鎌田 妙子
(仏文科2期生)

楽しかった4年間の学生生活はあっという間に過ぎ、卒業してから13年という月日が経とうとしています。仏文2期生の皆さん、元気で過ごすごですか？また皆で郡山に集まって楽しく過ごしたいですね。

私は卒業した後、地元である岩手県花巻市に戻り地元の建設会社を経て、現職のニッポンレンタカー東北(株)に勤務し12年目を迎えています。昨年の4月からは所長として一つの店舗を任せられ、10月には11年間在籍した花巻営業所から隣町の北上営業所へ転勤となり、更に忙しい日々を送っています。所長として仕事をすることになって、それまでは無かった責任の重さを感じるようになり、部下の管理やどうしたら売上を伸ばせるか、毎日数字とにらめっこで頭が痛いです。しかし、充実度はそれまでと比べものにならないほど高く、精神的にキツイ時もありますが、結果が出せた時の喜びは非常に大きいもので、日々様々な勉強をしているところです。

この1年で、私を取り巻く環境は大きく変わりました。そして、私の在籍した奥羽大学文学部もまた大きく変わろうとしています。3月に卒業する学生達をもって文学部は幕を閉じることになりました。文学部同窓会の役員の一人として同窓会の運営に携わってきた私としては、文学部が無くなる事に寂しさと悔しさを感じています。同窓会としては、文学部が消滅しても卒業生は存在するわけですから、会は存続していきたいと考えています。しかし、卒業生の皆様の協力・賛同無しではそれも叶いません。これから先、何年か経って「同窓会が存続していて良かった」と思っただけのように私達役員も努力して参りますので、ぜひ、ご協力をお願いいたします。

ーニッポンレンタカー東北(株)勤務ー

人 事

<退 職>

村田 篤信 助 手 薬 学 部 12月31日付
 守谷 明子 事 務 職 員 学事部(歯学部担当) ヶ
 鈴木幸之助 事 務 職 員 財 務 部 ヶ
 鈴木 美香 歯科衛生士 附 属 病 院 ヶ

慶 弔

<結 婚>

おめでとうございます。

○永井 智子 看護部 看護師 11月11日
 (旧姓 山田)

<訃 報>

慎んでお悔やみ申し上げます。

- 総務部 小野 礼子
 義父 小野 辰衛 殿 (78歳) 11月16日
- 薬学部 宮嶋 勝春
 実父 宮嶋 芳雄 殿 (78歳) 11月19日
- 歯学部 久野 弘武
 実母 久野 光子 殿 (86歳) 12月 3 日
- 歯学部 中 貴弘
 祖父 中 眞光 殿 (82歳) 12月21日
- 総務部 影山藤一郎
 実母 影山 トメ 殿 (90歳) 1 月 7 日



<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸甚です。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先／奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報111号 (通算No236) 平成19年 1 月11日発行

発 行 奥 羽 大 学
 学 報 編 集 委 員 会
 委員長 清 水 秋 雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番 1
 電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372
 ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
 メールアドレス info@ohu-u.ac.jp